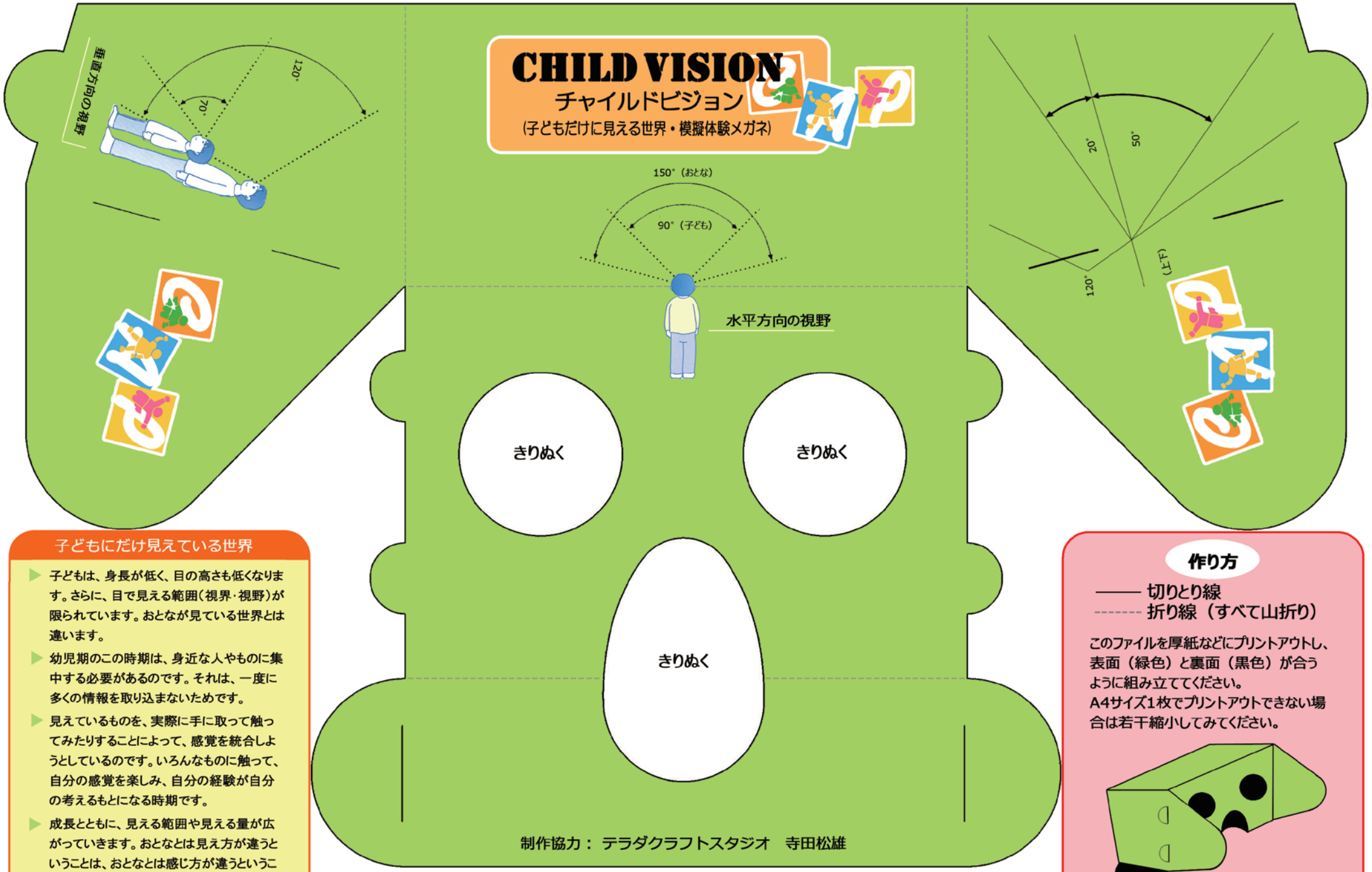
NPO法人CAPセンター・JAPAN発行　チャイルドビジョン　表面



子どもにだけ見えている世界

- 子どもは、身長が低く、目の高さも低くなります。さらに、目で見える範囲（視界・視野）が限られています。おとなが見ている世界とは違います。
- 幼児期のこの時期は、身近な人やものに集中する必要があるのです。それは、一度に多くの情報を取り込まないためです。
- 見えているものを、実際に手に取って触ってみたりすることによって、感覚を統合しようとしているのです。いろんなものに触って、自分の感覚を楽しみ、自分の経験が自分の考えるもとになる時期です。
- 成長とともに、見える範囲や見える量が広がっていきます。おとなとは見え方が違うということは、おとなとは感じ方が違うということです。

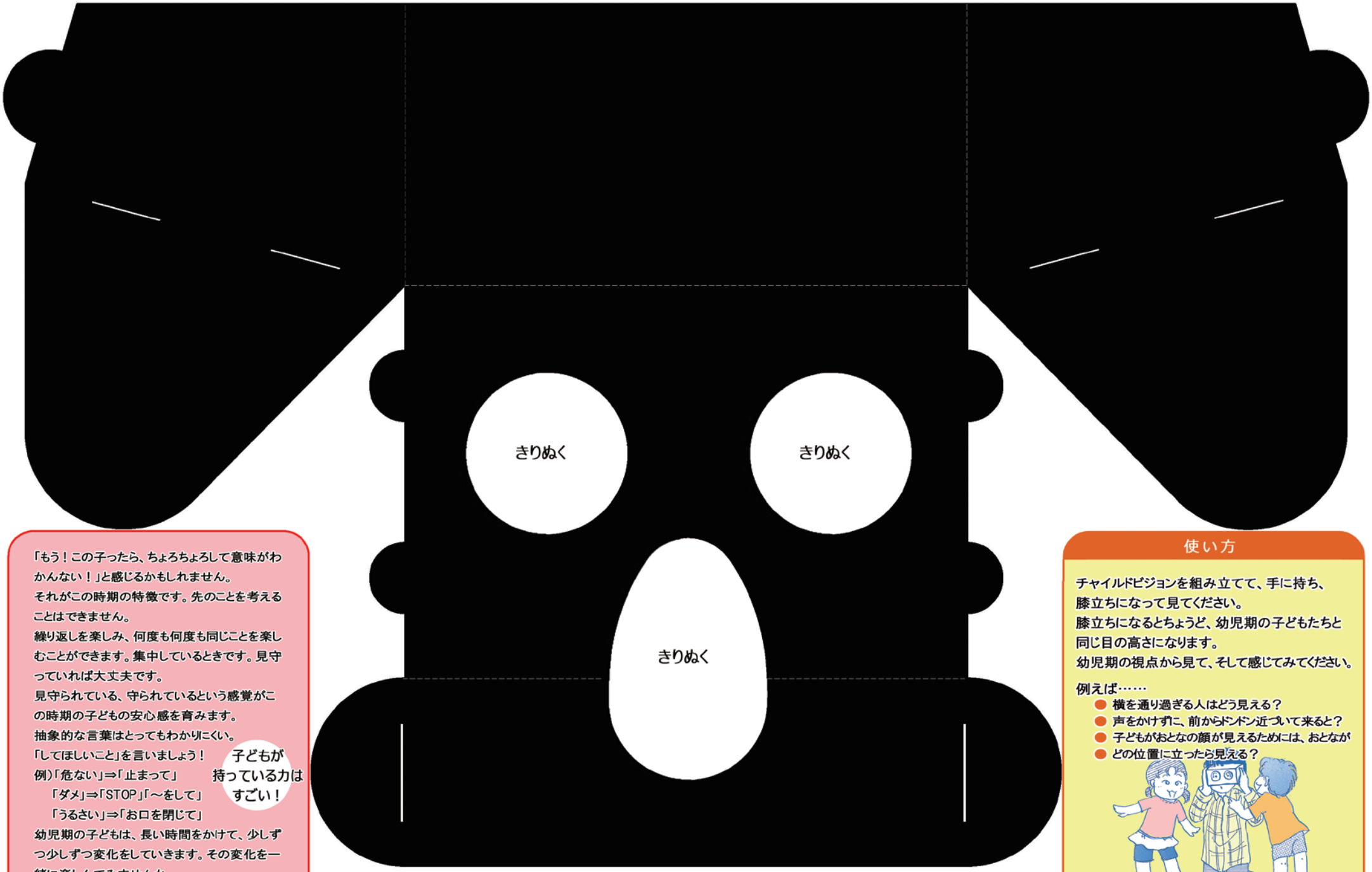
※チャイルドビジョンは、おとなが“子どもの視点”を意識することを目的に作成したものです。

作り方

—— 切りとり線
-------- 折り線（すべて山折り）

このファイルを厚紙などにプリントアウトし、表面（緑色）と裏面（黒色）が合うように組み立ててください。
A4サイズ1枚でプリントアウトできない場合は若干縮小してみてください。

チャイルドビジョン完成図



「もう！この子ったら、ちょろちょろして意味がわかんない！」と感じるかもしれません。
それがこの時期の特徴です。先のことを考えることはできません。
繰り返しを楽しみ、何度も何度も同じことを楽しむことができます。集中しているときです。見守っていれば大丈夫です。
見守られている、守られているという感覚がこの時期の子どもの安心感を育みます。
抽象的な言葉はとってもわかりにくい。
「してほしいこと」を言いましょう！
例）「危ない」⇒「止まって」
　「ダメ」⇒「STOP」「～をして」
　「うるさい」⇒「お口を閉じて」
幼児期の子どもは、長い時間をかけて、少しずつ少しずつ変化をしていきます。その変化を一緒に楽しんでみませんか。

子どもが持っている力はすごい！

使い方

チャイルドビジョンを組み立てて、手に持ち、膝立ちになって見てください。
膝立ちになるとちょうど、幼児期の子どもたちと同じ目の高さになります。
幼児期の視点から見て、そして感じてみてください。

例えば……
- 横を通り過ぎる人はどう見える？
- 声をかけずに、前からドンドン近づいて来ると？
- 子どもがおとなの顔が見えるためには、おとなが
- どの位置に立ったら見える？